

## 第二回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

日時：令和2年9月28日（月）

10:00～12:00

場所：国営海の中道海浜公園事務所

### 議事次第

#### 1. 開会

#### 2. 議題

- 1) 将来像のキーワード・・・・・・・・資料1
  
- 2) 海の中道海浜公園の将来像（案）・・・・・・・・資料2
  
- 3) 将来像（案）を踏まえた今後の取組みの方向性・・・・・・・・資料3
  
- 4) 各主体における今後の計画、予定等・・・・・・・・資料4

#### 3. 閉会

以上

#### ○配付資料

国営海の中道魅力向上推進協議会 委員名簿

配席図

資料1 公園の将来像として盛り込むべきキーワード案

資料2 海の中道海浜公園の将来像（案）

資料3 将来像（案）を踏まえた今後の取組みの方向性

資料4-1 各主体からの発表資料（海の中道管理センター）

資料4-2 // （福岡市 海の中道 青少年海の家）

資料4-3 // （海の中道 P-PFI 事業コンソーシアム）

参考資料1 令和2年版国土交通白書抜粋 将来予測される様々な環境変化

参考資料2 「新しい生活様式」を心がけて公園をつかおう！4つのポイント

参考資料3 電動キックボード試乗会 アンケート結果

参考資料4 各エリアの利用状況

参考資料5 各エリアの整備状況、公園内外のアクセスの現状

参考資料6 第一回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 議事要旨

| 海の中道海浜公園の計画・設計等   |                                      |  |   | 近年のトレンド、自治体の計画等                     |  |  |  |   |   |
|---|--------------------------------------|--|---|-------------------------------------|--|--|--|---|---|
| 海の中道海浜公園<br>基本設計<br>(S51.3)   | 海の中道海浜公園<br>環境共生計画<br>(H11.3)        | 整備・管理運営<br>プログラム (H29.3)<br>整備・管理運営の重点事項                             | 本公園及び周辺地域の<br>独自性                                     | 社会情勢の<br>変化                         | 都市公園を取り巻く<br>状況の変化   | 国土交通省の<br>方向性                                      | 福岡県の計画   | 福岡市の計画  | 今後予想される<br>社会変化*                                  |
| レクリエーション<br>大拠点<br>スケールメリット<br>通年利用<br>循環的かつ長期的に<br>需要を喚起しうる内<br>容と質を確保 |                                      | 広域レクリエーション需<br>要に対応する魅力ある公<br>園<br>広大で豊かな自然環境を<br>活かした「体験・経験」の<br>拠点 | 多様な主体が参画した<br>公園<br>東西約 6km、広さ<br>500ha を超える広大な<br>敷地 |                                     |  |  | 豊かな文化・スポーツ   |   |   |
| (地域との) 共存関係   |                                      | インバウンド   | 特有の歴史<br>・江戸時代から続くク<br>ロマツの植林<br>・大陸との交流を裏付<br>ける金印   | 訪日観光需要の拡大                           | 経済成長の実現  |  | 活力にあふれ成長力<br>に富んだ経済<br>「住んでよし、訪れて<br>よし」の観光地づくり            | 活力と存在感<br>海に育まれた歴史と<br>文化                     |   |
| 環境<br>北部九州圏域の広域<br>緑地系統<br>緑地帯を拡大<br>自然公園的な性格                           | 環境保全<br>循環型社会                        | 「白砂青松」の松林育成保<br>全  | 白砂青松の景観<br>陸繋砂州<br>和白干潟<br>内海と外海の二つの海<br>浜環境を有する      | 自然との調和<br>持続可能・多様・包<br>摂的な社会 (SDGs) | 良好な生活環境<br>グリーンインフラ<br>持続可能な地域社会<br>の形成  |  | 環境   | 自然と共生<br>持続可能で生活の質<br>の高い都市                   |   |
|   | 環境教育<br>市民参加の場<br>新たなライフスタイル<br>実践の場 | 環境教育、環境学習<br>地域住民等との協働   |   |                                     |  |  | 安心して子育て  |   |   |
|   |                                      |  |   | 心の豊かさを求める<br>価値観                    | 美しい景観<br>快適で質の高い生活   |  | 選択肢の多い社会の<br>実現<br>誰もが元気で健康に<br>暮らせる<br>健康づくり<br>サイクルツーリズム | 心豊か<br>一人一花<br>「ひと」も「まち」も<br>どちらも幸せになれる<br>社会 | 人口減少・高齢化の進行<br>65 歳以上単独世帯の<br>増加<br>新しい生活様式       |
| 限界利用者に対して<br>利用抵抗を小さく   |                                      | ユニバーサルデザイン<br>多様な施設・主体と連携  |   | バリアフリー化                             | バリアフリー化  |  | 食育・地産地消  |   |   |
|   |                                      |  |   | インフラの老朽化<br>メンテナンスコスト<br>の増大<br>ICT | 安心・安全の確保<br>持続可能なインフラ<br>の管理<br>新技術・情報技術の活<br>用<br>インフラの柔軟な利<br>活用<br>多様なニーズに対応<br>したインフラ空間の<br>活用<br>ストック効果を最大化 | 民との連携を加速<br>(都市公園を) 柔軟に<br>使いこなす<br>ストック効果を高め<br>る |  |   | 老朽化インフラの増加<br>新たな移動手段<br>インフラ分野の AI<br>研究開発 (の進展) |

※令和 2 年度版 国土交通省白書 参照 (「特集 新型コロナウイルス感染症への対応」、及び「第 I 部 第 2 章将来予測される様々な環境変化」を参考)

# キーワードの分類

| 海の中道海浜公園の計画・設計等  |                                      |  |   | 近年のトレンド、自治体の計画等                                 |  |   |  |   |  |
|--|--------------------------------------|--|---|---|--|---|--|---|--|
| 海の中道海浜公園<br>基本設計<br>(S51.3)  | 海の中道海浜公園<br>環境共生計画<br>(H11.3)        | 整備・管理運営<br>プログラム (H29.3)<br>整備・管理運営の重点事項                             | 本公園及び周辺地域の<br>独自性                                     | 社会情勢の<br>変化                                     | 都市公園を取り巻く<br>状況の変化   | 国土交通省の<br>方向性                                     | 福岡県の計画   | 福岡市の計画  | 今後予想される<br>社会変化*                                       |
| レクリエーションー<br>大拠点<br>スケールメリット<br>通年利用<br>循環的かつ長期的に<br>需要を喚起しうる内<br>容と質を確保 |                                      | 広域レクリエーション需<br>要に対応する魅力ある公<br>園<br>広大で豊かな自然環境を<br>活かした「体験・経験」の<br>拠点 | 多様な主体が参画した<br>公園<br>東西約 6km、広さ<br>500ha を超える広大な<br>敷地 | レクリエーション  |  |   | 豊かな文化・スポーツ   |   |  |
| (地域との) 共存関係  |                                      | インバウンド   | 特有の歴史<br>・江戸時代から続くク<br>ロマツの植林<br>・大陸との交流を裏<br>ける金印    | 訪日観光需要の拡大                                       | 経済成長の実現  |   | 活力にあふれ成長力<br>に富んだ経済<br>「住んでよし、訪れて<br>よし」の観光地づくり            | 活力と存在感<br>海に育まれた歴史と<br>文化                     |  |
| 環境<br>北部九州圏域の広域<br>緑地系統<br>緑地帯を拡大<br>自然公園的な性格                            | 環境保全<br>循環型社会                        | 「白砂青松」の松林育成保<br>全  | 白砂青松の景観<br>陸繋砂州<br>和白干潟<br>内海と外海の二つの海<br>浜環境を有する      | 自然との調和<br>持続可能・多様な主体<br>が参画した地域社会<br>の形成 (SDGs) | 良好な生活環境<br>グリーンインフラ  |   | 環境   | 自然と共生<br>持続可能で生活の質<br>の高い都市                   |  |
|  | 環境教育<br>市民参加の場<br>新たなライフスタイル<br>実践の場 | 環境教育、環境学習<br>地域住民等との協働   |   | 教育・子育て  |  |   | 安心して子育て  |   |  |
|  |                                      |  |   | 心の豊かさを求める<br>価値観                                | 美しい景観<br>快適で質の高い生活   |   | 選択肢の多い社会の<br>実現<br>誰もが元気で健康に<br>暮らせる<br>健康づくり<br>サイクルツーリズム | 心豊か<br>一人一花<br>「ひと」も「まち」も<br>どちらも幸せになれる<br>社会 | 人口減少・高齢化の進<br>行<br>65 歳以上単独世帯の<br>増加<br>新しい生活様式        |
| 限界利用者に対して<br>利用抵抗を小さく  |                                      | ユニバーサルデザイン<br>多様な施設・主体と連携  |   | 多様性   |  |   | 食育・地産地消  |   |  |
|  |                                      |  |   | インフラの老朽化<br>メンテナンスコストの<br>増大<br>ICT             | 安心・安全の確保<br>持続可能なインフラ<br>の管理<br>新技術・情報技術の活<br>用<br>インフラの柔軟な利<br>活用<br>多様なニーズに対応<br>したインフラ空間の<br>活用<br>ストック効果を最大化 | 民との連携を加速<br>(都市公園を)柔軟に<br>使いこなす<br>ストック効果を高め<br>る |  |   | 老朽化インフラの増<br>加<br>新たな移動手段<br>インフラ分野の A I<br>研究開発 (の進展) |

資料2

# 海の中道海浜公園の将来像(案)

○キーワードの分類、前回協議会の意見等をもとに、本公園の将来像となる4つの柱の案を以下の通り設定。

## キーワード分類

## 将来像（4つの柱）

レクリエーション

観光・地域活性化

1. 「オールうみなか」で人とまちに活力を  
を生ま出し続ける公園

環境

教育・子育て

2. 海の中道の自然を後世に継承し、活かす  
公園

暮らし・健康

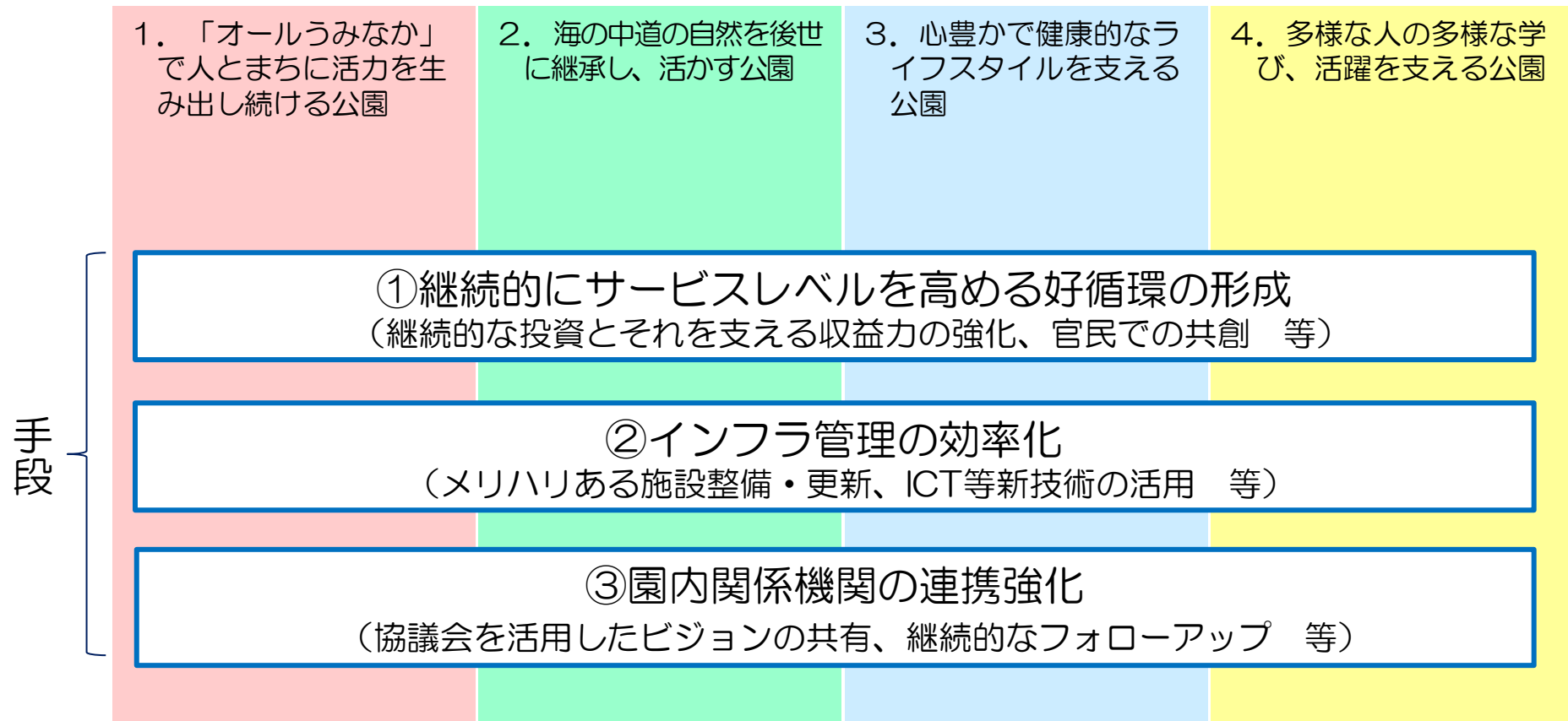
3. 心豊かで健康的なライフスタイルを支  
える公園

多様性

4. 多様な人の多様な学び、活躍を支える  
公園

○将来像の実現という目的を達成するため、様々な施策、手段を講じていく必要があるが、将来像実現の土台となる特に重要な手段として、以下の3つの案を設定。

## 将来像（目的）



資料3

# 将来像(案)を踏まえた 今後の取組みの方向性

## 将来像1

# 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

(概ね10年後に実現を目指す具体的なイメージ)

○園内の関係機関、周辺の施設等が連携して海の中道固有の魅力、福岡の魅力、日本の魅力を発信し、地域の住民はもとより世界の国々から人々が訪れ、楽しむ場となっている



“うみなか”ならではの食体験



日本文化を学ぶ



印象的な花の風景



博多湾でのSUP体験

写真出典: 国営ひたち海浜公園HP



西戸崎神社 納涼祭

公園を含む地域全体の活性化

写真出典: SAITOUZAKI.NETHP



# 将来像1を踏まえた今後の取組み

| 視点                  | 現状  | 不足点・課題等  | 将来像実現に向けた今後の取組み   |
|---------------------|---|--|---|
| 多様な主体との連携、一体的な発信    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内関係機関で月一回定例の運営協議会を実施し、連携を図っている</li> <li>・各機関それぞれが志賀島や西戸崎等の地域と連携した取組みを実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内関係機関による会議は行っているものの、連絡・調整程度にとどまっている。</li> <li>・地域の魅力をより高めるためには”海の中道”として公園と地域との一体的な発信の強化が必要</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の中の連携強化</li> </ul> 例:「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」での長期ビジョンの共有、連携強化による継続的な魅力向上   |
|                     |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の外との連携強化</li> </ul> 例:公園、志賀島や西戸崎等の地域関係者がオールうみなかで地域の魅力を発信する「(仮称)うみなかたび推進会議」を設置し、ポータルサイトなどによりエリアで一体となった情報発信を行う  |
| 広域需要に応えるレクリエーションの提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な芝生広場や、花修景など、スケールメリットを活かした様々な魅力を提供している</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者はファミリー層が中心。ファミリー層が引き続き楽しむことができるとともに、その他の層(インバウンド含む)にも公園の魅力を発揮していく事が必要</li> <li>・B地区で新たにPark-PFI事業が開始されるなど今後公園内の利用の変化が想定される</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供</li> </ul> 例:既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアに、その中間に位置し多様な層の玄関口となる海の中道駅口は利便性を向上させるために再整備 |
|                     |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜公園でありながら、海の活用が十分でない</li> </ul>  |

※下線部は後のページで詳細イメージあり

# 将来像1を踏まえた今後の取組み

| 視点                  | 現状  | 不足点・課題等  | 将来像実現に向けた今後の取組み   |
|---------------------|---|--|---|
| 広域需要に応えるレクリエーションの提供 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な芝生広場や、花修景など、スケールメリットを活かした様々な魅力を提供している</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の魅力が十分に提供できていない。(飲食に対する満足度が十分に得られていない)</li> </ul> | <p>海の中道ならではの飲食サービスの充実</p> <p>例:地産地消、食育等をテーマとした食の提供、地域と連携したマルシェ等の食のイベントの充実</p> |
| 地域活性化への貢献           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から集客のあるイベント等を開催。</li> <li>・志賀島-海の中道サイクルツーリズム協議会など、地域活性化の取組みに参画</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園から周辺地域の利用を促す方策が不十分</li> </ul>                    | <p>公園を起点とした地域観光への誘導</p> <p>例:地元と連携した収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、ツアーの提供</p>             |

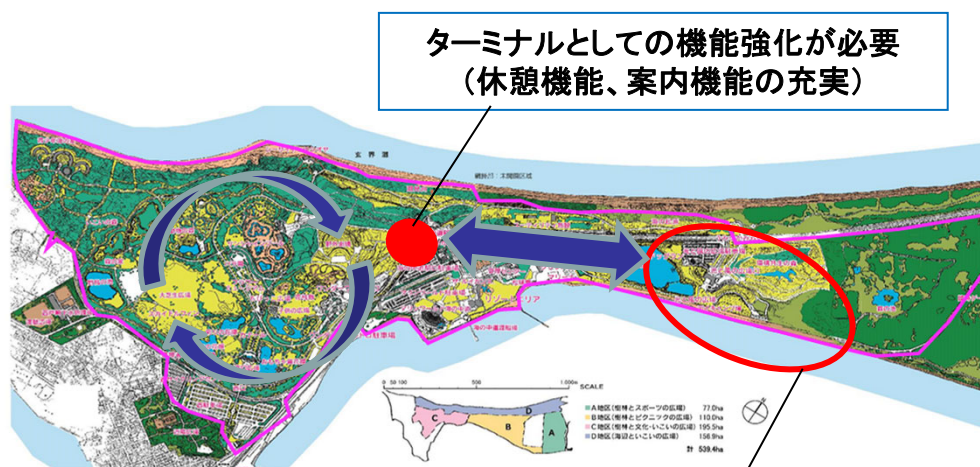
# 海の中道駅口の利便性、魅力の向上

## 課題

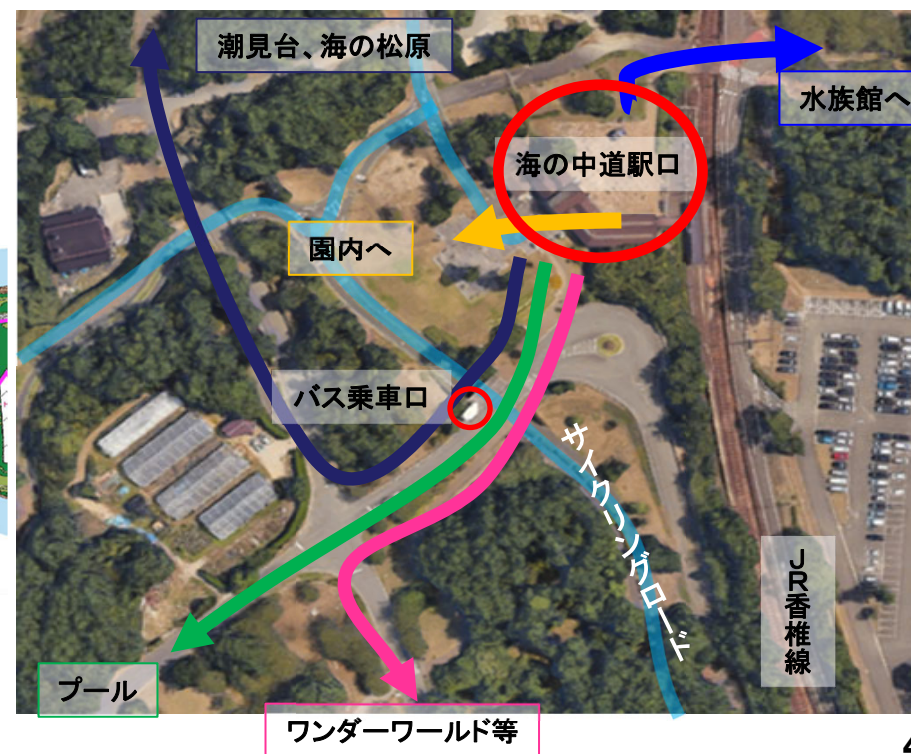
- ✓ 今後B地区でPark-PFIの事業が開始された場合、C地区とB地区間のターミナル拠点として重要となるが、現状ではB地区への園内バスも、休憩場所もない（利用面の課題）
- ✓ インバウンドを始めとした旅行者等が入園することが多い入口であるが、各施設への導線が分かりづらい。（利用面・管理面の課題）
- ✓ エリアとしての魅力がなく、単なる通過点となっている。（管理面の課題）

## 対応案

- ✓ 電車、バス等の待ち時間を快適に過ごすための休憩所や飲食物販施設の導入等の交通ターミナル拠点としての機能の付加
- ✓ 初めての方でも迷わない分かりやすい導線への再整備、ゲートの改修、多言語表記等の案内の強化
- ✓ 他のエリアと差別化した新たな景観の創出（例：日本の伝統文化（折紙等）を核としたエリア、ファミリー層以外をターゲットとしたフォトジェニックなエリア（恋人の聖地となる場所等）に再整備 等）



Park-PFIの事業開始に伴い今後利用者が増加する見込み



# 期待される効果、実現のために必要な措置

## ■期待される効果

### ○利用者

- 公園に初めて来た利用者でも迷いなく目的地へ向かうことができる
- 電車待ち時間、バス待ち時間を快適に過ごすことができる
- これまで本公園になかった新たな楽しみ方ができる
- 昔遊びの提供、折紙の折り方教室等のソフトプログラムを併せて行うことで、アクティブシニアがボランティアとして活動することができる

### ○国

- 老朽化施設の計画的な更新による利用者の安全確保、利便性向上
- より多様な世代に利用頂くことで国営公園としてのストック効果が一層向上

### ○管理センター・ホテル事業者

- 利用者への各施設の案内が容易になる
- 公園オリジナルの折紙と入園料とのセット販売や関連イベントの展開など、収益性を高める工夫が可能
- ここで結婚式をしたいと思わせるフォトジェニックな場所の創出によるホテル利用者の増加

### ○その他（周辺地域への影響）

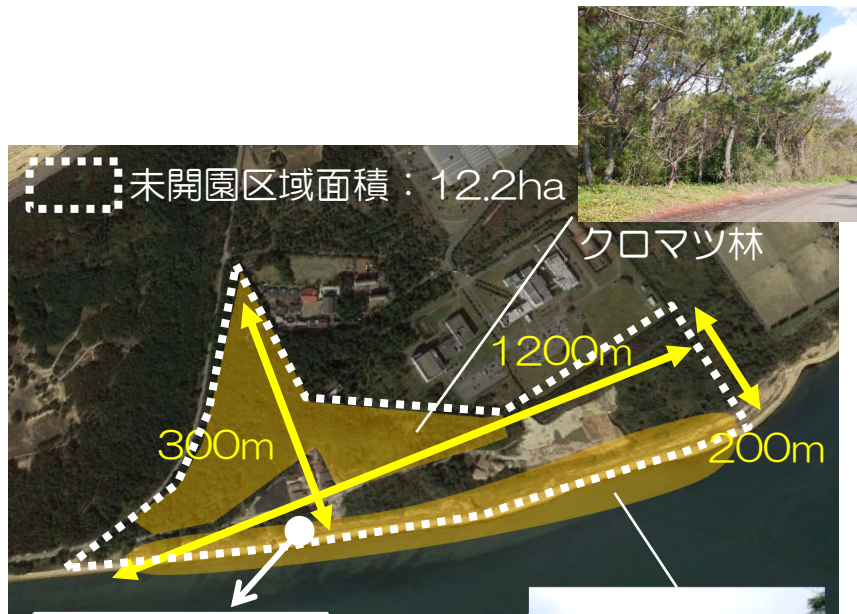
- 観光客等が増加し、JR香椎線の乗車率が向上すれば、交通事業者の経営の安定化、西戸崎住民の足の安定的確保にもつながる

## ■実現のために必要な措置

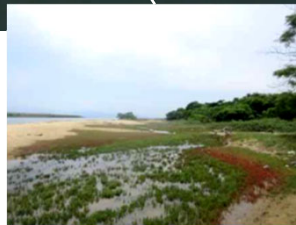
- 海の中道駅ロゲートの改修、周辺エリアの再整備(新たに花壇を設ける場合は他のエリアの花壇を廃止するなど維持管理費のメリハリにも配慮)
- B地区への新たなバス路線の運行 等

# 「海浜公園」としての魅力向上(B地区未開園区域)

- B地区の森の池エリアとA地区の間の約12.2haのエリアが未開園区域。
- エリア内にはクロマツ林が分布。A地区から連続する海岸線は、公園内の博多湾側で唯一自然海岸が残り、穏やかな海に面した砂浜が広がっている。
- 環境の保全と海浜レクリエーションの活用を両立させることを基本として、今後整備内容の具体化を行う予定。



博多湾ごしの景観



自然海岸及び塩沼地植生



博多湾エコパークゾーンゾーニング



干潟保全活動の様子  
(ウェットランドフォームホームページより)

「ウェットランドフォーラム」や「和白干潟を守る会」といった保全活動団体により渡り鳥の住処である和白干潟の保全活動が行われている。

## 将来像2

# 海の中道の自然を後世に継承し、活かす公園

(概ね10年後に実現を目指す具体的なイメージ)

- 海の中道固有のマツ林を保全、再生して白砂青松の景観が後世も変わらず遺されている
- 協働による森づくり等により豊かな自然環境・生態系が創出され、自然や生き物を学ぶ環境学習のフィールドとして活用されている



ボランティアによる松の保全・育成



豊かな自然の中での生き物採集



自然を満喫できる  
宿泊施設



海の生き物観察



夜の公園の活用



海を眺めながらでのんびりキャンプ

# 将来像2を踏まえた今後の取組み

| 視点                   | 現状  | 不足点・課題等  | 将来像実現に向けた今後の取組み  |
|----------------------|---|--|--|
| 海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>海の中道の環境に適した自然環境の保全、創出等の取組を行い、まとまった規模の緑地を創出</li> <li>クロマツの植林、松くい虫対策や密度管理等、松林育成保全の取組を継続的に実施</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き北部九州圏の広域緑地系統の重要な拠点として固有の自然、生態系を守り、その大切さを伝えていくことが必要</li> <li>D地区の未開園区域等において飛砂防止等のためのマツ林の育成が必要</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで守り、育ててきた自然を損なわず、活かす公園としての基本方針に基づく整備、管理運営を実施</li> <li><u>D地区未開園区域の整備、マツの植栽等によるマツ林育成</u></li> <li>白砂青松の景観を守るための多様な主体等との協働</li> </ul> 例: マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との情報共有、ボランティアへの教育 |
| 環境学習フィールドとして活用       | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境共生の森において、学習プログラムを通じて樹林環境を創出するなど、環境学習の拠点機能を発揮</li> <li>青少年海の家、マリンワールド海の中道では、学校単位での利用を中心に、学習プログラム等を実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境共生の森は市民と作り続ける森であり、今後も継続的に森を育てていくことが必要</li> <li>自然豊かな環境を活かした様々な学習プログラムの一層の充実が必要</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア等と連携した森づくりの継続、人材育成</li> <li>森の池、動物の森、マリンワールド等園内の多様な資源を活用した環境学習プログラムの一層の充実</li> </ul> 例: 環境教育の指導者を養成する講習会の開催、宿泊とセットにした環境学習   |

※下線部は後のページで詳細イメージあり

# 白砂青松の景観を創出するためのD地区の整備

- D地区は、玄界灘に沿った砂丘とクロマツ林からなる帯状のエリアであり、東側の約98.7haのエリアが未開園区域。



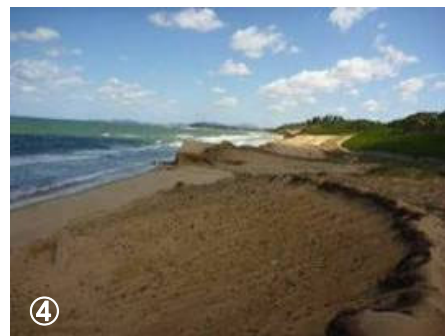
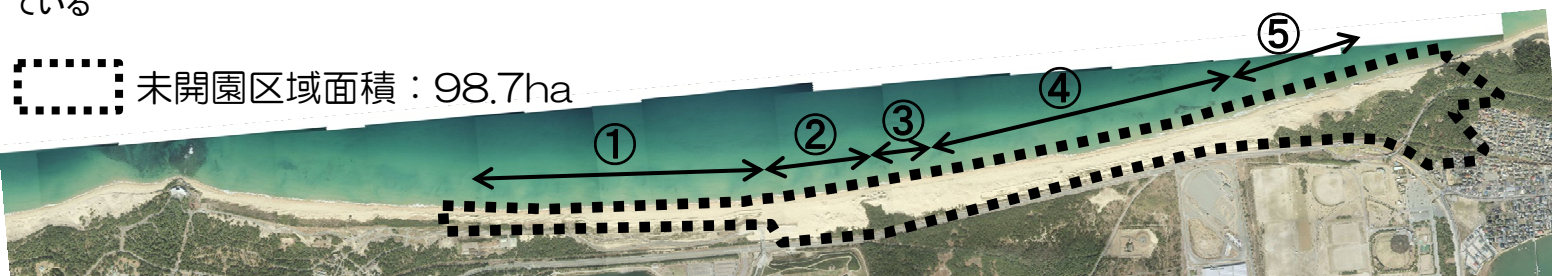
① 海浜部の陸側で堆砂垣が整備されており、小さな砂丘が形成されている



② 搬入土によりFH12、勾配1:3の土堤が造成されている



③ 汀線に近い場所でこぶ状の地形が形成されている



④ かつて設置された堆砂垣や静砂垣に堆砂し、砂丘状の地形が連続的に形成されている



⑤ 浜崖が発達しており、その陸側でまとまりのあるクロマツ林が成立している



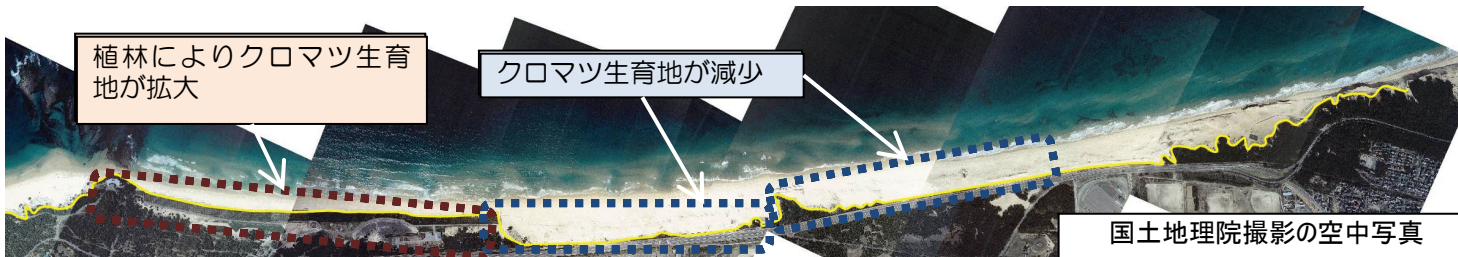
# 白砂青松の景観を創出するためのD地区の整備

- 飛砂等によるマツ林の後退を防ぐため、これまでもクロマツの植栽等を実施しているが、既存のマツ林の後退や砂に埋もれた植栽箇所もあり、厳しい環境の中でのマツ林の保全再生が必要

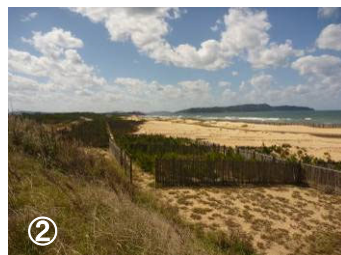
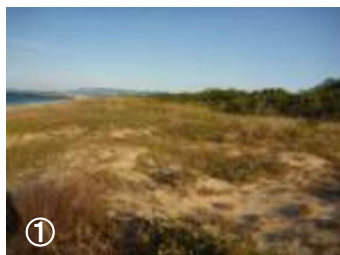
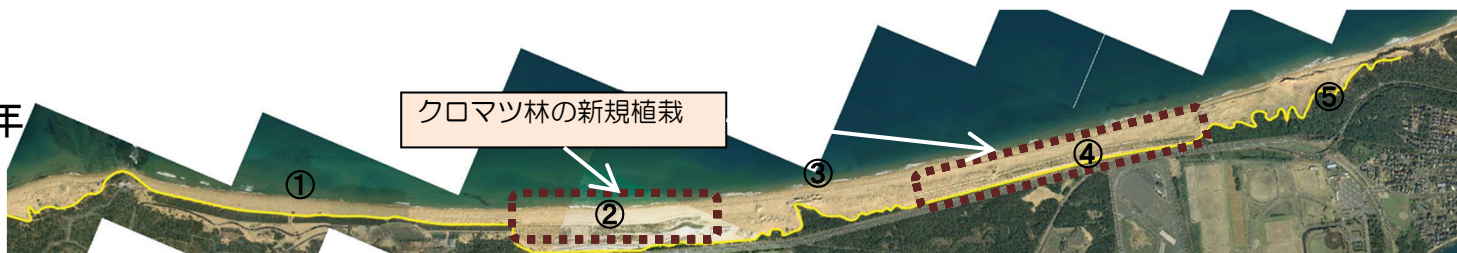
S56年



H13年



H22年



植栽地の状況

## 将来像3

# 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

(概ね10年後に実現を目指す具体的なイメージ)

- 様々なニーズに応じて多種多様なスポーツや健康増進につながる運動の場として活用されている
- みどり豊かで開放的な空間が、感染症対策等に伴う運動不足、ストレス蓄積を解消する場として、新しい生活様式に基づき楽しく利用されている



多くの市民に利用されるスポーツ拠点



多様な健康プログラムの実施



New Normal Park Life ポスター（全国都市公園整備促進協議会）抜粋




# 将来像3を踏まえた今後の取組み

| 視点               | 現状  | 不足点・課題等  | 将来像実現に向けた今後の取組み  |
|------------------|---|--|--|
| スポーツ・レクリエーションの場  | ・大芝生広場など、スポーツを楽しむる広大なオープンスペースを提供、個人・団体でのスポーツ利用がなされている | ・本格的なスポーツができる専用の球場、グラウンド等がない(一方で国営公園予定地である雁ノ巣レクリエーションセンターでは福岡市が市民のニーズを踏まえた多様な専用スポーツ施設を整備、運営している) | ・既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁ノ巣レクリエーションセンターの区域を、福岡市が管理する現行の形を基本として国営公園として供用するとともに、他の公園区域との連携を強化                     |
| 健康増進、ストレス解消に繋がる場 | ・ウォーキングイベントやヨガ体験等多様なプログラムを提供している                      | ・今後も高齢社会が進展することを踏まえ、より充実が必要  | ・海の中道の自然を活かした健康プログラムの充実<br>例：D地区海浜部を活用したビーチラン<br>・福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組の推進<br>例：一人一花運動、サイクルツーリズムと連携したイベント開催 |
|                  | ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため三密対策等の実施                           | ・コロナ禍の中で、都市の中の癒やしの空間、心を休められるリラックス空間としての重要性が増している   | ・感染症対策を徹底し、利用者が安全に、安心して利用できる空間を提供<br>・緑豊かな環境の中でリラックスできる、ストレスを解消できる場の提供   |

※下線部は後のページで詳細イメージあり

# 未開園区域の現状 A地区(雁ノ巣レクリエーションセンター)

- 雁ノ巣レクリエーションセンター（雁レク）は、昭和45年に一部返還された米軍博多基地の一部を福岡市が旧大蔵省から使用承認を受け、昭和46年に開園。
- 後に返還された基地跡地と一体的に国営海の中道海浜公園の区域として都市計画決定。現在も福岡市が条例に基づいて設置、管理を行っている。

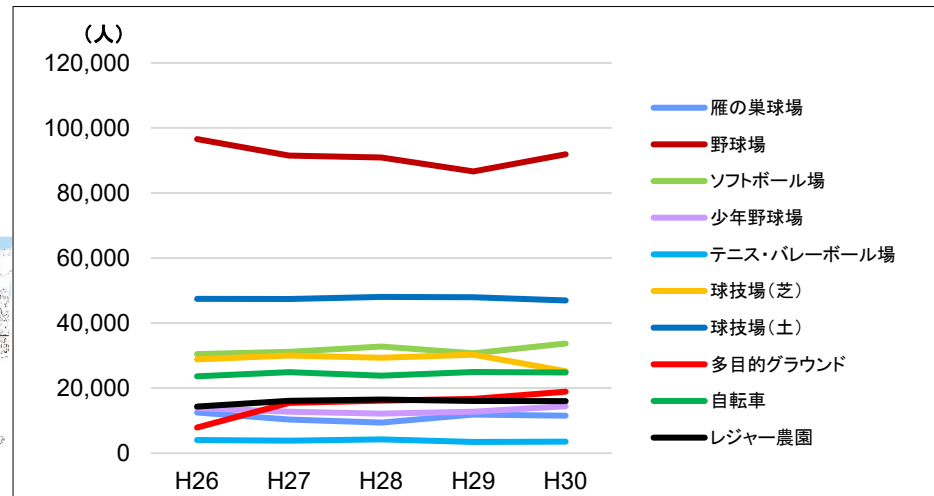
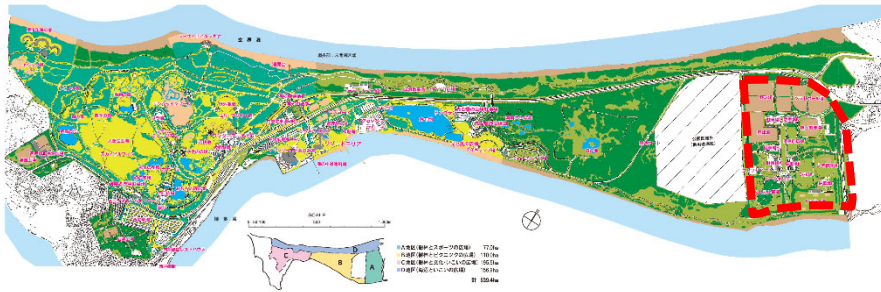
| 年度                  | 1968  | 1969 | 1970 | 1971   | 1972  | 1973   | 1974   | 1975  | 1976  | 1977~ |  |
|---------------------|---|------|------|--|---|--|--|---|---|-------|--|
|                     | S43   | S44  | S45  | S46  | S47   | S48  | S49  | S50   | S51   | S52~  |  |
| 公園の出来事              |  <p>1964年撮影(米軍博多基地時代)</p>   |      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 米軍博多基地返還</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 雁ノ巣公園建設連絡協議会発足</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「海の中道海浜公園」都市計画決定</li> <li>● 海の中道海浜公園基本設計</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国営公園の区域決定、工事着手</li> </ul> |   |   |       |  |
| 雁ノ巣レクリエーションセンターの出来事 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 福岡市↓大蔵省 雁ノ巣地域の米軍飛行場の一時使用許可申請</li> </ul>  <p>1969年撮影</p> |      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 米軍博多基地一部返還</li> <li>● 大蔵省↓福岡市 使用承認</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 雁ノ巣レクリエーションセンター開園</li> <li>● 福岡市雁ノ巣レクリエーションセンター条例</li> </ul> |  <p>1975年撮影</p> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本設計で雁レクは各種運動施設を集約整備したゾーンとして位置づけ</li> <li>● 雁レクも都市計画決定区域に</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国営公園を設置すべき区域として決定、告示(法第33条)</li> </ul> |       |  |

# 未開園区域の現状 A地区(雁ノ巣レクリエーションセンター)

## ○ 利用者数

単位:人

| H25     | H26     | H27     | H28     | H29     | H30     |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 453,716 | 505,086 | 530,075 | 494,037 | 480,907 | 488,058 |



【施設別利用者数】



球技場



軟式野球場

<球技場の状況>



ノルディックウォーキング



サマーキャンプin雁の巣

<イベント開催状況>



【施設位置図】

## 将来像4

# 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

(概ね10年後に実現を目指す具体的なイメージ)

- ニーズに応じた多様な学びのメニュー、市民参加のメニューが提供され、公園を通じて自己実現が図られる、社会とつながるきっかけが提供されている
- ユニバーサルデザインで施設が整備され、誰もが円滑に移動し、楽しむことができる



様々な学びの機会の提供  
(マリンワールド海の中道 バックヤード見学)



障がいのある子もいない子も一緒に遊べる場  
出典:東京都公園協会HP 砧公園 みんなのひろば



高齢者がボランティアとして活動  
写真出典:福岡市南区HP



車いす利用者も一緒にサイクリングを楽しむ

# 将来像4を踏まえた今後の取組み

| 視点                       | 現状   | 不足点・課題等  | 将来像実現に向けた今後の取組み   |
|--------------------------|--|--|---|
| 学びの場                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>園内の自然学習やクラフト体験、ガーデニング講習などの学びの機会を提供</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子供向けや、自然・ガーデニングに係るものが中心。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>食など、大人の学びなおしの機会、生涯学習の場となる多様な学びのメニューの提供</li> </ul>  |
| 市民参加の場                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全活動や、ボランティアを中心に、市民参加の場を提供</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民が主体的に企画し、参加するような仕組みがない</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>市民が主体的に提供するプログラムなど市民参加のメニューの充実</li> </ul> <p>例：地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムの充実</p>                                       |
| ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインに基づき、ハード・ソフトの取組みを継続的に実施。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も社会状況の変化や利用者ニーズの変化等に応じて継続的に実施が必要</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き利用者の利便性を向上させるためのハード面の改修、ソフト面の充実を推進</li> <li>障がい者向けのプログラムの充実</li> </ul> <p>例：動物の森において、障がい者の心身の活性化に役立つケアプログラムを提供</p> |
|                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>園内の移動手段として、園内バス、貸自転車を運営</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>園内バスの利用者数が少ない、運行本数が少ない</li> <li>サイクリングコースで迷いやすい箇所等が存在。移動の手段だけでなく健康増進のための手段としての自転車の活用も今後検討が必要</li> <li>今後より開園区域が広がること、新たな事業が開始されることを踏まえた園内交通の見直しが必要</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の園内移動手段の改善、新たな移動手段の導入</li> </ul> <p>例：サイクリングコース、バスルートの再編、新たなモビリティの導入、新たな休憩・交通拠点の整備</p>                               |

※下線部は後のページで詳細イメージあり

## 課題

- ✓ サイクリングコースの一部に迷いやすい箇所がある、現在地が分かりづらい。（利用面の課題）
- ✓ 大雨による冠水等の際、HPで通れない箇所を掲出しているが、多くの利用者にとってはどこが通れるルートなのか分かりづらい。（利用面の課題）
- ✓ 大雨による冠水、台風等による倒木、積雪等の際、サイクリングコース全体を閉めるか、部分的に開けるか、どのルートを確認するかはその都度現場の状況次第で判断。（管理面の課題）



## 対応案

- ✓ サイクリングコースを内周コース、外周コース等に色分けし、それぞれで園内を周遊できるルートへ再編する
- ✓ その上で、コースごとに復旧の優先順位を明確にし、利用者には、「どこが通れないか」ではなく「どのコースが通れるか」を案内する形に改める。（ポンプによる排水は内周コースを優先的に行って速やかに解放する、外周コースは自然に水が引くまで待ってから解放する など）





# 期待される効果、実現のために必要な措置

## ■期待される効果

### ○利用者

- ・行きたい場所に合った通れるコースが明確になり、円滑に移動可能
- ・自然災害等の後に自転車が使えなくなる機会が減少
- ・健康づくりのためのサイクリングに活用（外周コースを歩行者動線と可能な限り分離し、目的地への移動よりサイクリング自体を目的とした者へのコースとして特徴づける等）

### ○国

- ・整備のメリハリ（サイクリングロード全体を常に解放することを想定して排水性を向上させる場合に必要となる排水設備等の新設、ポンプの増設等の対策費用が不要となる）

### ○管理センター

- ・利用者へのコース案内が容易になる
- ・管理内容のメリハリ、自然災害からの復旧手順の明確化
- ・収益性の向上（貸自転車の稼働率の向上）

### ○その他（環境面）

- ・ある程度公園内に水がたまることを許容することで、公園の有する湛水機能を発揮

## ■実現のために必要な措置

- ・サイクリングコースの再検討及び検討結果に基づく改修
- ・部分的な園路の拡幅
- ・路面標示
- ・案内サインの改修 等

# 園内バスの現状と対応の方向性

## 課題

- ✓ 運行ルートはC地区のみでB地区まで行くバスルートはない（利用面の課題）
- ✓ 園内バスの利用者数は公園利用者全体の約1%程度にとどまっており、運営収支は赤字（管理面の課題）

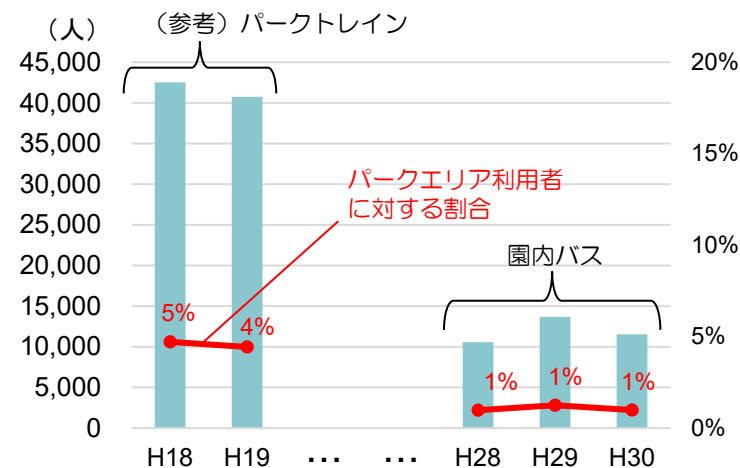
## 対応案

- ✓ 現在、バス停ごとの乗降者数の把握、1日券の割引（500円→300円）等の試行を行っており、そのデータ等をもとに、バスルート・バス停の見直しやデマンドバス、新しいモビリティ（次頁）での補完など園内交通の再編を検討する



## 利用料金

| 区分               | 料金   |
|------------------|------|
| 1日フリーパス券(3歳以上一律) | 500円 |
| 1乗車毎につき(3歳以上一律)  | 200円 |



【園内交通の利用者数と利用割合】

※対応の方向性としては、利用者の利便性の向上と収益性の向上の両立。必要となる措置としては以下が考えられる

- バスルートの再編と園路等の改修
- バス停のスクラップ&ビルド
- 主要ルートのみ定期運行とし、その他の場所はデマンドバスで補完するなど柔軟な運行形態

# パーソナルモビリティ(電動キックボード)の実証実験 国土交通省

- 電動キックボードの公道での走行に向けた規制緩和を目指す(株)mobby rideと本公園内で電動キックボードの走行実証実験の実施を計画中。
- 9/3、4日に園内各機関の職員が参加して電動キックボードの安全性等を確認する試乗会を実施。

**mobby** **SEGWAY**  
**Discovery**

Segway Discovery社と連携し  
シェアリング用車体の開発を行っている



**最高速度**：25km/h（ルート毎に1km単位で速度設定可能）

**走行可能距離**：最大65km

**重量**：27.5kg

**バッテリー**：取り外し式リチウムイオンバッテリー

**登坂能力**：14%（8度）

**乗車可能体重**：100kg以下推奨

**対象年齢**：13歳以上推奨

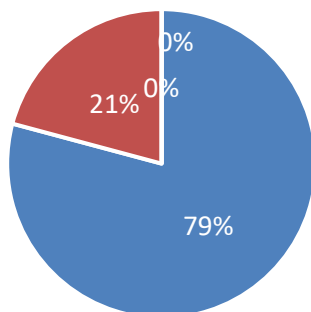
**その他装備**：GPS、通信機能内蔵、LEDライト、テールランプ

# 職員による電動キックボード試乗結果概要(1)

○試乗した職員25名のアンケート結果によると、すべての職員が電動キックボードは乗り心地がよく、楽しいと回答。

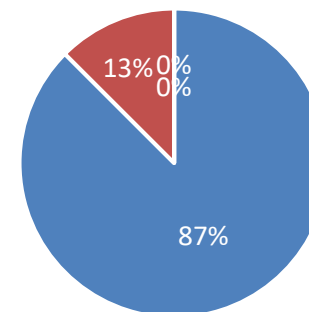
○安全性については、約7, 8割が園内を安全に走行できると回答。

問1: 電動キックボード乗り心地



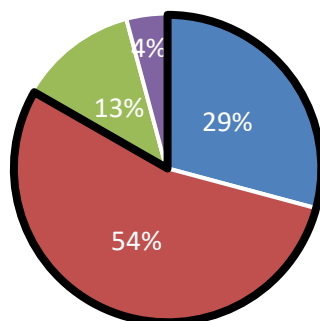
■ 非常に良い ■ やや良い ■ やや悪い ■ 非常に悪い

問2: 電動キックボードの楽しさ



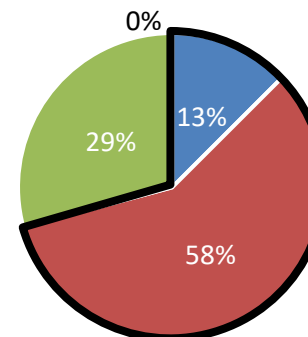
■ 非常に楽しい ■ やや楽しい ■ ややつまらない ■ 非常につまらない

問3: バスルートでの安全性



■ 非常に安全 ■ やや安全 ■ やや危険 ■ 非常に危険

問4: サイクリングコースでの安全性

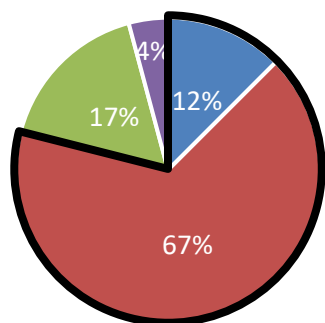


■ 非常に安全 ■ やや安全 ■ やや危険 ■ 非常に危険

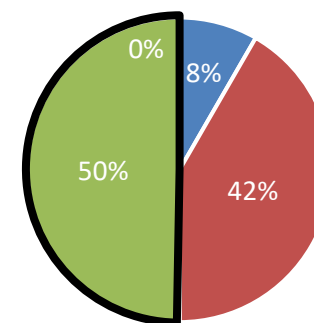
○キックボードにとって自転車、自転車にとってキックボードが同じコースを走ることについて問題と感じるか、については、どちらもバスルートについては8割程度が問題ないと回答しているが、サイクリングコースでは5割程度がやや問題があると回答している。

問5: キックボードに乗っていて、同じコースを自転車が走ることを問題と感じるか

問5-1: バスルートの混在走行



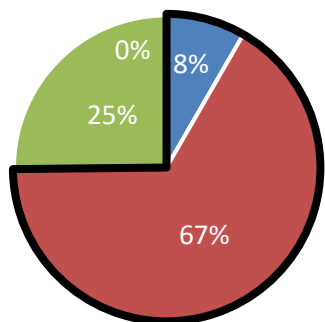
問5-2: サイクリングコースの混在走行



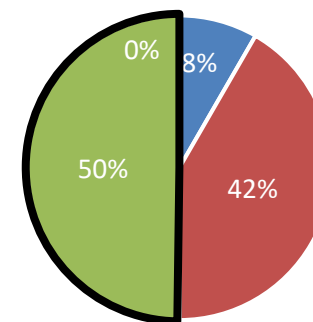
■ 全く問題ない ■ それほど問題ない ■ やや問題がある ■ 非常に問題がある ■ 全く問題ない ■ それほど問題ない ■ やや問題がある ■ 非常に問題がある

問6: 自転車に乗っていて、同じコースをキックボードが走ることを問題と感じるか

問6-1: バスルートの混在走行



問6-2: サイクリングコースの混在走行



■ 全く問題ない ■ それほど問題ない ■ やや問題がある ■ 非常に問題がある ■ 全く問題ない ■ それほど問題ない ■ やや問題がある ■ 非常に問題がある

# パーソナルモビリティ(電動キックボード)の実証実験 国土交通省

- ある程度安全性、有効性が確認できたため、公園利用者のニーズや今後本格的に導入する場合の走行ルール等を検討するため、利用者向けの実証実験を実施予定。
- サイクリングコースでの自転車と電動キックボードの混在については不安視する声が多かったことから、まずは道幅が広く路面の凹凸が少ない園内バスルートの一部において、バスの運行終了後(11月目途)に実施できるように調整していきたい。



# 新たな休憩・交通拠点の整備イメージ

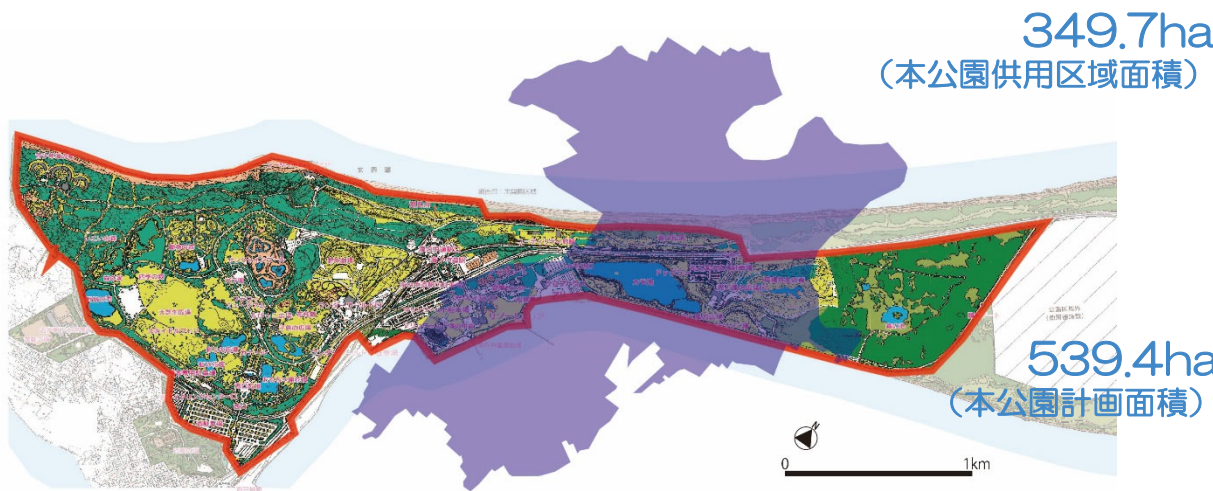
- 公園内で最も利用が集中するエリアの中心に交通の拠点、休憩の拠点を新たに整備することで、利用者の利便性の向上と管理の効率化を図る。
- 園内交通の再編と並行して検討を行い、既存の施設の集約・再編をあわせて行うなど、メリハリをつけた整備、管理を念頭に検討する。





※利用者数の根拠は参考資料4参照

# (参考)園内交通の再編、施設の集約再編の必要性 国土交通省

- 海の中道海浜公園の現在の供用面積349.7haは、日本で一番面積が小さい自治体である富山県舟橋村（人口約3千人）の村域面積347haを上回る規模。
- その自然豊かで広大な空間を、園内全機関のスタッフ（600人強）で整備・運営することで、年間240万人の方に利用頂いている。
- 今後、将来的に計画面積約540haまで供用した上で、限られた資源（予算、人員）でサービス水準を維持・向上させていくためには、園内交通の再編や施設の集約再編等の「選択と集中」の検討は不可欠。



-  海の中道海浜公園 供用区域 (349.7ha)
-  富山県舟橋村 (347.0ha)

面積が小さい自治体ランキング

| ランク | 都道府県 | 市町村  | 面積 (ha) |
|-----|------|------|---------|
| 1   | 富山県  | 舟橋村  | 347     |
| 2   | 沖縄県  | 渡名喜村 | 387     |
| 3   | 大阪府  | 忠岡町  | 397     |
| 4   | 奈良県  | 三宅町  | 406     |
| 5   | 東京都  | 利島村  | 412     |
| 6   | 鳥取県  | 日吉津村 | 420     |
| 7   | 奈良県  | 安堵町  | 431     |
| 8   | 埼玉県  | 蕨市   | 511     |
| 9   | 岐阜県  | 北方町  | 518     |
| 10  | 沖縄県  | 与那原町 | 518     |
| 11  | 大阪府  | 田尻町  | 562     |
| 12  | 福岡県  | 吉富町  | 572     |
| 13  | 和歌山県 | 太地町  | 581     |
| 14  | 奈良県  | 川西町  | 593     |
| 15  | 東京都  | 青ヶ島村 | 596     |
| 16  | 京都府  | 大山崎町 | 597     |
| 17  | 三重県  | 朝日町  | 599     |
| 18  | 奈良県  | 上牧町  | 614     |
| 19  | 愛知県  | 豊山町  | 618     |
| 20  | 東京都  | 狛江市  | 639     |



# 海の中道管理センター - 公園関係機関との連携事例 -

- ① 獣医師連携による動物医療技術の向上
- ② 希少水生生物の保全と普及啓発
- ③ 「障がい者利用週間」のプログラム共催
- ④ サイクルツーリズムによる地域観光振興
- ⑤ 「オールうみなか」で広域利用を促進

# ① 獣医師連携による動物医療技術の向上



【連携機関】  
マリンワールド

【概要】  
新築された診療施設を活用し、「動物の森」及び「マリンワールド」の獣医師が  
検査や手術など動物医療技術の向上にむけた情報を共有

【開始年】  
2020年～

## ②希少水生生物の保全と普及啓発

### みらいの森体験塾～水辺の生き物かんさつ会～

- 🕒 7/26(日)  
10:00～12:00
- 🏠 環境共生の森  
(みらいの森)⑦
- 💰 100円
- 👥 30名  
※対象は幼児・  
小学生と保護者
- ☔ 中止



事前申込

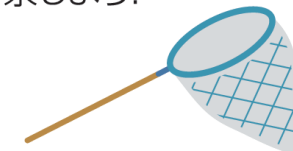
協力:マリンワールド海の中道

### みんなで観察!カスミサンショウウオの世界



事前申込

カスミサンショウウオ  
と池の水生昆虫を観  
察しよう!



- 🕒 8/8(土)10:00～12:00
  - 🏠 森の家レクチャールームなど④
  - 💰 100円
  - 👥 20名 ※対象は幼児・小学生と保護者
  - ☔ 中止
- 協力:マリンワールド海の中道

#### 【連携機関】

マリンワールド

#### 【概要】

マリンワールドが取り組む「希少水生生物の生息域外保全活動」の普及啓発として、  
管理センターと共同で「自然観察会」を開催

#### 【開始年】

2019年～(保全活動は2017年から開始)

## ③「障がい者利用週間」のプログラム共催

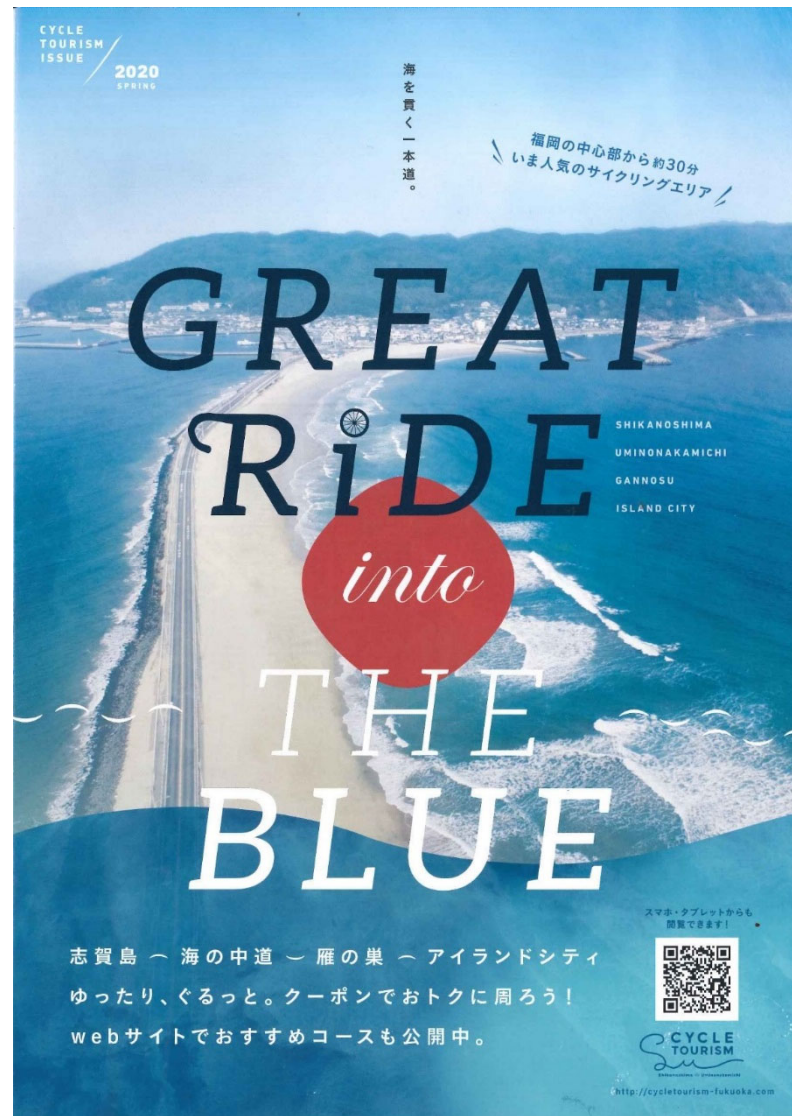


【連携機関】  
青少年海の家

【概要】  
海の家が主催する「障がい者利用週間」にあわせて、障がいをお持ちの方や長期療養中の方や対象に、動物とのふれあいプログラムを提供

【開始年】  
2019年～

## ④ サイクルツーリズムによる地域観光振興



### 【連携機関】

サイクルツーリズム協議会  
(ホテルと管理センターが参画)

### 【概要】

公園と地域をつなぐ観光振興として、民間事業者・福岡市等と連携し「サイクルツーリズム協議会」を構成

“志賀島-海の中道エリア”を一体的に広報する「ガイドマップ」と「ホームページ」を制作

サイクルステーションの連携や志賀島内のサイクコース清掃など地域貢献活動も実施

### 【開始年】

2015年～

## ⑤「オールうみなか」で広域利用を促進

～夏の「うみなか」を満喫しよう～  
詳細はQRコードよりご覧ください。★

海の申道 海浜公園 **セグウェイガイドツアー 夏限定コース登場!**

マリンワールド 海の申道 **大迫力のイルカショー!**

海の申道 海浜公園 **ザ・シネマナイト&ボール (DAY/NIGHT)**  
(プールは宿泊者限定)

海の申道 マリーナ&テニス **博多湾をクルージング!**

セグウェイジャパン 申込専用HP よりお申込ください。

事前申込

THE Cinema Night FUKUOKA

### 【連携機関】

マリンワールド、ホテル、マリーナ

### 【概要】

「うみなかたび推進会議」を立ち上げ、連携機関の様々なアクティビティを積極的に発信

マイクロツーリズムも視野に入れ、連携機関の特色を組み合わせることで地域観光の推進を目指す

今後は、情報プラットフォームとして「ポータルサイト」を開設予定 (2021年4月頃)

### 【開始年】

2020年～



国営海の中道海浜公園  
魅力向上推進協議会資料



海の中道青少年海の家  
Since 1989.7

所長 安部 倫太郎

## 1、設立・運営

設立 平成元年 福岡市直営

運営 平成27年 指定管理1期 平成30年 指定管理2期

あゆみらい福岡市自然の家共同事業体

共同事業体代表会社 麻生教育サービス株式会社

☆福岡市海の中道青少年海の家 ☆福岡市立背振少年自然の家

“スローガン”

「野外活動を通し感動を 感動を通して成長を」





## 2、経営方針

### 《ミッション》

「我々は、教育事業を通して、社会システム変革への貢献を図り、社会に貢献します。」

### 《ビジョン》

WE DELIVER THE BEST

我々は、常に顧客の期待する以上のサービスを提供し、顧客と社会から信頼され続ける企業を目指します。

### 《スローガン》

緊張感の中にも明るい職場作り。

一致協力して、目標を達成しよう。

### 3、共同体事業としての基本理念

- ▶ 福岡市の貴重な野外活動体験の場（施設）として、市の施策(**第4次福岡市子ども総合計画**)上の位置づけや生涯学習上の観点を十分理解した施設の管理運営を行う。
- ▶ **恵まれた自然環境の中で集団生活や野外活動を通じて青少年の育成を図ることを目的**とし、そのための魅力的な野外活動プログラムの提供を行う。
- ▶ 福岡市との十分な調整を行い、市の定める福岡市立背振少年自然の家条例、福岡市海の中道青少年海の家**条例を遵守**し、学校等の教育機関及び地域団体、関連機関等と連携し利用促進を図ると共に効果的な学習が出来る管理運営を行う。
- ▶ **市の施設である事を念頭におき、市民の福祉の増進、市民の公平な利用**に供する管理運営を行う。また、反社会勢力の排除を行うとともに、各種法令順守をする。
- ▶ リスクマネジメントを徹底し、**利用者にとって安全・安心な施設の提供**が出来る管理運営を行う。
- ▶ 地元企業である麻生グループの強みを活かして、地域や企業との連携・共生を図り、新しい魅力あるプログラムの開発をすることによる**利用者の拡大・満足度の拡大**を図る。
- ▶ 職員の教育に力をいれ、常に利用者と地域社会から信頼され続ける施設運営に努める。
- ▶ **日本一の満足度の高い施設(宿泊・食事、プログラム、職員の行動、施設の管理・運営)を目指し、共同事業体一体**となって、常に**利用者の期待する以上のサービス**を提供する。

## 4、数値目標（利用者数）

▶年間のべ利用者数

**70,000人**

|        |         |
|--------|---------|
| 平成27年度 | 60,891人 |
| 平成28年度 | 68,149人 |
| 平成29年度 | 69,780人 |
| 平成30年度 | 58,244人 |
| 平成31年度 | 58,282人 |



#### 4、数値目標（満足度）

**利用者満足度**

**施設目標**

**昨年実績**

**総合**

**90%以上**

**93%**

**接遇に関して**

**90%以上**

**95%**

**提供プログラム**

**90%以上**

**91%**

**利用しやすさ**

**80%以上**

**89%**

# 5、指定管理 プロジェクト

## ▶ 概要

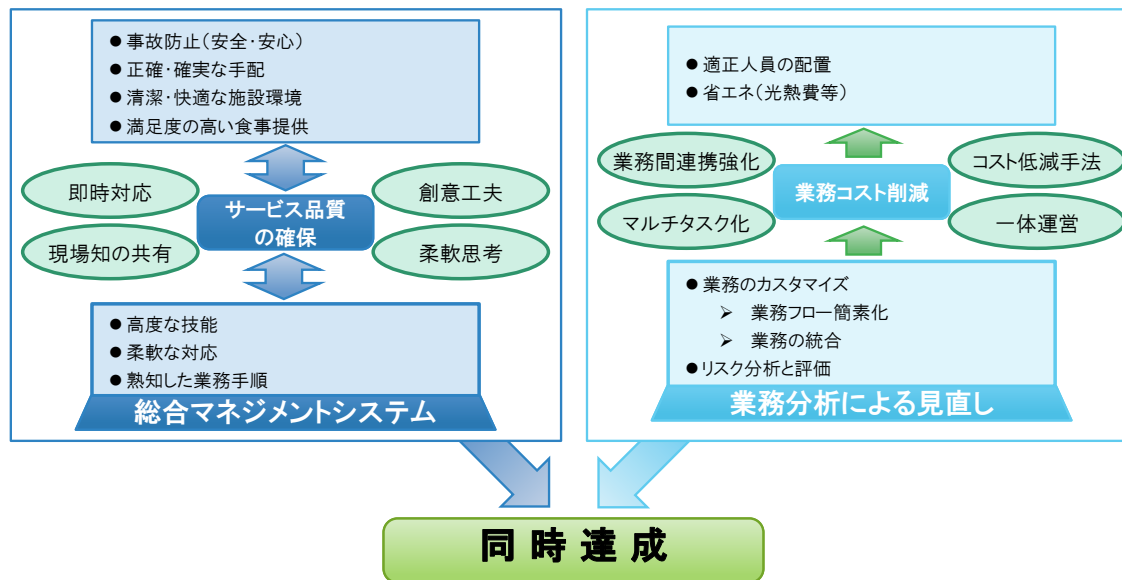
- ▶ 平成30年度から5年間で青少年で実現する7つのプロジェクト。

## ▶ 目的

- A) 利用者の自主性を重んじながら、職員は寄り添い、利用者満足度の向上を図る
- B) 新規顧客（特に、青少年団体）の創造とリピーターの増加
- C) 地域に根ざした青少年施設としてのブランドの向上
- D) 従業員のモチベーションと満足度の向上

## ▶ 費用

- ▶ 共同事業体が主体となり、積極的に投資
- ▶ 利用料収入の増加につながり、還元される循環システムの構築



# 第2期指定管理 セブンプロジェクト

## ▶ プロジェクト

### 1. 利用者の体調管理、管理の向上

- ▶ 夏：熱中症予防への備品貸与（クーラーBOX、ひんやりシート、扇風機など）、情報提供（気象情報など）
- ▶ 冬：インフルエンザ、風邪などの予防対策（マスク、暖房機、暖かい飲み物の提供など）
- ▶ 製氷機の導入設置（利用は費用負担も検討）

### 2. 施設・備品の充実

- ▶ LEDの導入、自動点灯(トイレ照明)、非常用移動発電機、3Rの実施（生ごみの堆肥化）
- ▶ 一部備品のリース化による清潔感、トラブル等の未然防止（シーツや冬季布団の導入）
- ▶ リサイクル商材を活用して、安全確認をした上で、備品の充実を図る
- ▶ 花壇の設置による利用者おもてなし、施設イメージの向上

### 3. ICTを活用して、顧客データベースを構築し、両施設の利用者へのサービス向上

- ▶ 会員制度の創設と情報発信を行い、リピーター増を狙う。（リピーター率を現在の60%を70%以上）
- ▶ 受付業務の簡素化・スピードアップ

### 4. 青少年体験活動の推進 ①施設内外のフィールドの活用

- ▶ 背振：運動広場、ソリ場、プレイホールの整備とプログラムの充実
- ▶ 海の中道：海浜公園・ガンレクとの連携、カヌー教室（他の自然の家との連携）

### 5. 青少年体験活動の推進 ②野外活動機会の積極提供

- ▶ スポーツ大会や青少年団体の誘致（一部ガンレクと連携）：自主事業
- ▶ 外部団体、外部講師と連携した新たな自然体験活動プログラムの実施（自作天体望遠鏡の作成、農業体験など）：指定管理者主催事業
- ▶ こどもの生きる力、社会性を育む事業の実施（こども主体のキャンプ、出前講座など）：指定管理者主催事業

### 6. 安全管理の向上

- ▶ 警備の強化、宿直者への負担軽減のための施策として、監視カメラ・センサーライトなどの設置

### 7. 職員のモチベーション・資質向上を図りつつ、体調管理の向上

- ▶ 外部研修の受講機会の増加、他施設の職員との交流の場の創出、
- ▶ ICT導入による業務効率の向上（特に事務処理作業の軽減）
- ▶ 健康管理、メンタル面へのサポート強化（熱中症対策、寒さ対策、面談の実施）

# 公園内施設との連携事例活動紹介

## 公園内施設との連携の強化



野外活動を通し感動を  
感動を通し成長を



## 《マリンワールド海の中道》



## 《海の中道海浜公園》



## 《海の中道マリーナ&テニス》



## 《THE LUIGANS》





## 責任者としての使命感！

思考、行動の方向性を統一。  
メンバーの知恵が共振して力を生む

支配ではなく、目標を設定  
希望、喜び、達成感、誇りを与える



# 思いをカタチに！

- ◆あいさつで始まりあいさつで終わる！
- ◆風通しの良い職場環境づくり！
- ◆アイデアが積極的に出てくる雰囲気づくり！
- ◆情報の共有とスピード感をもって発信！
- ◆良い取り組みはマネする！
- ◆何はともあれ健康第一！
- ◆大切にすべきものは・・・ 利用者様の声



ご清聴ありがとうございました。

安全・安心をモットーに  
利用者様に満足いただける日本一の施設を目指します！



【海の家HP】



【海の家FB】



【海の家インスタ】